

いじめ防止基本方針

久慈市立長内小学校
令和5年4月 一部改訂

I いじめの防止等のための対策に関する基本的な考え方

1 いじめの定義（いじめ防止対策推進法 第1章総則第2条第1項）

「いじめ」とは、児童等に対して、該当児童等が在籍している等当該児童と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、該当行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

2 いじめの問題に対する基本的な考え方

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害しその心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、不登校や自殺などを引き起こす背景ともなる深刻な問題である。また、最近のインターネットを介した、いわゆる「ネット上のいじめ」は、いじめを一層複雑化、潜在化させている。

いじめの問題は、学校が一丸となって組織的に取り組むことを第一義とし、家庭、地域、及び関係機関等の協力を得ながら、社会総がかりで対峙することが必要である。また、いじめの問題の解決には、児童にいじめを絶対に許さないという意識と態度を育てることが大切である。

こうした中、本校は、学校教育目標に掲げる「心豊かで思いやりのある子ども」を育むことにより、いじめを生まない環境を築くとともに、すべての児童が生き生きとした学校生活を送ることができるよう教育活動を推進する。そのために、校長のリーダーシップのもと、全教職員がいじめの問題に対する感性を高め、組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組む。

3 いじめの基本認識

- (1) いじめは人権侵害であり、いかなる理由があっても許される行為ではない。
- (2) いじめは人間関係のトラブルを機序としているため、いじめられた側及びいじめた側の両方の児童並びにそれを取り巻く集団等に対し、適切な指導と支援が必要である。
- (3) いじめは教師の児童観や指導の在り方が問われる問題である。
- (4) いじめは家庭教育の在り方に大きな関わりをもっている。
- (5) いじめは学校、家庭、地域社会などすべての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって取り組むべき問題である。
- (6) いじめはその行為の態様により暴行、恐喝、強要等の刑罰法規に抵触することがある。

II いじめの未然防止のための取組

1 教職員による指導について

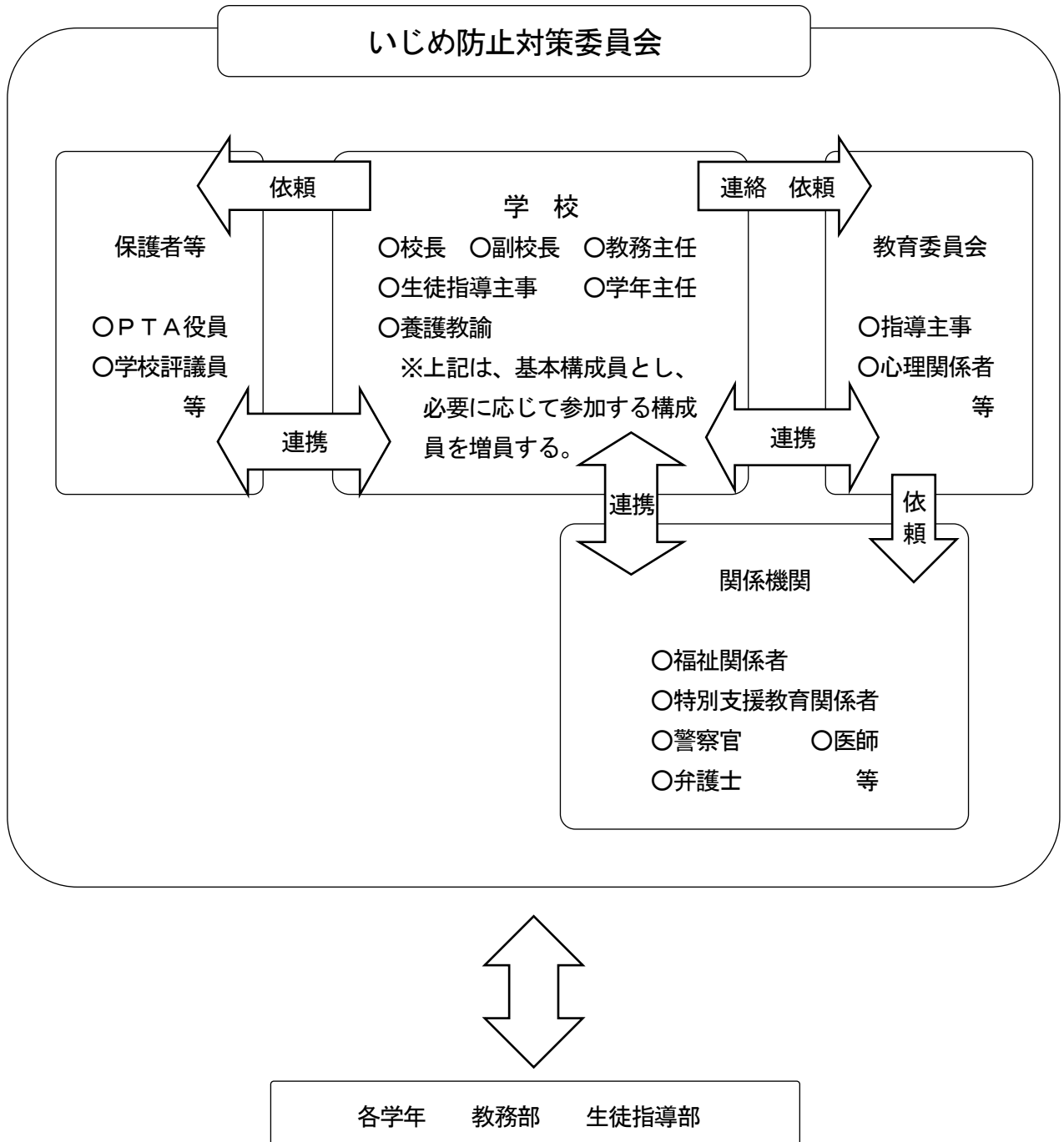
- (1) 学級や学年、学校が児童の心の居場所となるよう配慮し、安心・安全な学校生活を保障するとともに、児童が互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりする「絆づくり」に取り組む。
- (2) 自己有用感や自尊感情を育むため、児童一人ひとりが活躍し、認められる場のある教育活動を推進する。
- (3) すべての教師がわかりやすい授業を心がけ、基礎基本の定着を図るとともに、学習に対する達成感・成就感をもたせる。
- (4) 児童の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人関係能力（の素地）を養うため、全ての教育活動を通じて、道徳教育及び体験活動等の充実を図る。

- (5) いじめ防止の重要性に関する理解を深めるための啓発その他必要な処置として道徳、学級活動等の充実に努める。
- (6) 保護者、地域住民及びその他の関係者との連携を図り、早期発見、早期対応に努める。

2 いじめの防止等の対策のための組織

本校では、いじめの未然防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行う中核的な組織として「いじめ防止対策委員会」を設置する。

(1) 構成



(2) 取組内容

- ① いじめ防止基本方針の策定、年間指導計画の作成（道徳教育の全体計画への位置づけ）
- ② いじめにかかわる研修会の企画立案
- ③ 未然防止、早期発見の取組
- ④ アンケート及び教育相談の実施と結果報告（各学級・学年の状況報告等）
- ⑤ いじめ防止にかかわる児童の主体的な活動の推進

(3) 開催時期

年2回を定例会とし、いじめ（いじめの疑いも含む）事案の発生時は緊急開催し、事態の収束まで随時開催とする。

3 児童に培う力とその取組

- (1) 自分も他人も共にかけがえのない命を与えられ、生きていることを理解し、他者に対して温かい態度で接することができる思いやりの心を育む。
- (2) 学級活動や児童会活動などの場を活用して、児童自身がいじめの問題の解決に向けてどう関わったらよいかを考え、主体的に取り組もうとする力を育む。
- (3) 学級の諸問題について話し合っ解決する活動を通し、望ましい人間関係や社会参画の態度を育てるとともに、違いや多様性を越えて合意形成をする言語能力の育成を図る。
- (4) 「心とからだの健康観察」を活用した心のサポート授業等をとおして、児童一人ひとりのセルフケアやストレスマネジメントの力を高める。

4 児童の主体的な取組

- (1) 児童会企画の「ありがとう運動」等への取組
- (2) 好ましい人間関係づくりや異学年交流をねらいとした委員会活動や縦割り班活動（縦割り班清掃・遊び）
- (3) 各学級でいじめについて話し合う場の設定(学級活動)

5 家庭・地域との連携

- (1) 学校いじめ防止基本方針を、ホームページや学校通信に掲載するなどして広報活動に努める。
- (2) PTAの各種会議で、いじめの実態や指導方針について説明を行う。
- (3) いじめ防止等の取組について、学級通信や学年通信を通じて保護者に協力を呼びかける。
- (4) 授業参観において、保護者や地域住民に道徳の授業を公開する。
- (5) PTAを対象としたいじめ等の諸問題に関する研修会を開催する。

6 教職員研修

いじめの防止等のための対策に関する校内研修を年間計画に位置づけて実施し、いじめの防止等に関する教職員の資質向上を図る。

- (1) いじめの問題にかかわる校内研修会 年2回（7月、12月）
- (2) いじめ問題への取組についてのチェックポイントによる自己診断 年2回（7月、12月）

Ⅲ いじめの早期発見のための取組

1 いじめの早期発見のために

- (1) いじめや人間関係のトラブルで悩む児童が相談しやすいよう、日頃から教職員と児童が信頼関係を築くように心がける。
- (2) 日常の観察については、いじめ行為の発見だけでなく、児童の表情や行動の変化にも配慮する。
(学級担任は、日記や生活ノート等も活用する)
- (3) いじめは大人の見えないところで行われるため、授業中はもとより、休み時間、放課後においても児童の様子に目を配るよう努める。
- (4) 遊びやふざけあいのように見えるいじめなど、把握しにくいいじめについても、教職員間で情報交換をしながら発見に努める。
- (5) いじめの兆候に気づいたときは、教職員が、速やかに予防的介入を行う。
- (6) 地域や関係機関と定期的な情報交換を行い、日常的な連携を深める。

2 いじめアンケート及び教育相談の実施

いじめを早期に発見するため、児童や保護者からの情報収集を定期的に行う。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| (1) 児童を対象としたアンケート調査 | 年2回(6月、11月) |
| (2) 保護者を対象としたアンケート調査 | 年2回(6月、11月) |
| (3) 情報機器アンケート調査 | 年1回(6月) |
| (4) 教育相談を通じた児童からの聞き取り調査 | 年2回(6月、11月) |

3 相談窓口の紹介

いじめられている児童が、教職員や保護者に相談することは、非常に勇気がいる行為である。いじめを大人に打ちあけることによって、場合によっては、いじめがエスカレートする可能性があることを十分に認識し、その対応について細心の注意を払うこととする。

いじめの兆候を発見したときは、関係する教職員で迅速に情報を共有し、適切な対応を行う。

本校におけるいじめの相談窓口及び各種関係機関の相談窓口は下記のとおりである。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ○日常のいじめ相談(児童及び保護者) | 全教職員が対応 |
| ○スクールカウンセラーの活用 | 養護教諭・生徒指導主事 |
| ○地域からのいじめ相談 | 副校長 |
| ○インターネットを通じて行われるいじめ相談 | 学校または久慈警察署生活安全課 |

0194-53-0110

< 各種関係機関相談窓口 >

- | | | |
|------------------|-----------|----------------------|
| ○久慈市ふれあい電話 | 久慈市教育委員会 | 0194-52-2155 |
| | あすなろ塾 | 0194-53-2610 |
| | 県北 | 0194-53-4991 |
| ○岩手県立総合教育センター | ふれあい電話 | 0198-27-2331 |
| ○いのちの電話 | | 019-654-7575 |
| ○ヤングテレホンコーナー(県警) | | 019-651-7867 |
| ○24時間子供SOSダイヤル | | 0120-0-78310 |
| | メール相談アドレス | fureai@pref.iwate.jp |
| ○子どもの人権110番 | | 0120-007-110 |
| ○チャイルドライン | | 0120-99-7777 |

Ⅳ いじめの問題に対する早期対応

1 いじめに対する措置の基本的な考え方

- (1) いじめを発見したり、通報を受けたりしたときは、特定の教職員が抱え込むことなく、速やかに組織的な対応をする。
- (2) いじめられている児童及びいじめを知らせた児童の身の安全を最優先に考えるとともに、いじめている側の児童には、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導にあたる。
- (3) いじめの問題の解決にあたっては、謝罪や責任を問うことに主眼を置くのではなく、社会性の向上等、児童の人格の成長に主眼を置いた指導を行う。
- (4) 教職員全員の共通理解のもと、保護者の協力を得て、関係機関・専門機関と連携し対応にあたる。

2 いじめの発見・通報を受けたときの対応

- (1) いじめを発見したときは、その場でいじめの行為を止めさせ、事実関係を明らかにする。
- (2) いじめを発見したり、通報を受けたりしたときは、速やかに「いじめ防止対策委員会」を開催し、校長以下すべての教員の共通理解のもと、役割分担をして問題の解決にあたる。
- (3) いじめの事案について、生徒指導の範疇で対応する事案であるか、警察への通報を要する事案であるかを適切に判断する。
- (4) いじめられている児童や保護者の立場に立ち、関係者からの情報収集を綿密に行い、事実確認をする。
- (5) いじめの事実が確認された場合は、いじめをやめさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた児童及びその保護者に対する支援と、いじめを行った児童への指導とその保護者への助言を継続的に行う。
- (6) いじめを受けた児童が学校生活に不安を抱えている場合、複数の教職員で見守りを行うなど、いじめられた児童の安全を確保する。また、いじめられた児童が安心して教育を受けるために必要があると認められるときは、保護者と連携を取りながら、一定期間、別室等において学習を行わせる措置を講ずる。
- (7) いじめを受けた児童の心を癒すために、また、いじめを行った児童が適切な指導を受け、学校生活に適応していくために、スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図りながら、指導を行う。
- (8) 教育上必要があると認めるときは、学校教育法施行規則第26条の規定に基づき、適切に、児童に懲戒を加える。

3 いじめが起きた集団への対応

- (1) いじめを見ていた児童に対して、自分の問題として捉えさせる。
- (2) 学級等当該集団で話し合いを行うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、当該集団から根絶しようという態度を行き渡らせる。
- (3) 全ての児童が、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりをすすめるよう、教職員全体で支援する。

4 警察との連携

犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、久慈市教育委員会及び久慈警察署と連携して対処する。

5 ネットいじめへの対応

- (1) インターネット等を通じて行われるいじめを発見したり、通報を受けたりした場合は、「いじめ防止対策委員会」で情報を共有するとともに、被害の拡大を避けるため、久慈市教育委員会と連携し、プロバイダなどに情報の削除を求める。
- (2) 児童の生命、身体または財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに久慈警察署に通報し、適切な援助を求める。
- (3) インターネットの利用環境については、パソコン、携帯電話やスマートフォン等が大部分であることから、家庭の協力を得る。

V 重大事態への対処

1 重大事態の定義（いじめ防止対策推進法 第5章 総則 第28条1項）

- (1) いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
 - (2) いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。
- ※ なお、児童や保護者から上記の事態の訴えがあったときには重大事態ととらえる。

2 重大事態への対処（学校が調査の主体となる場合）

重大事態発生	<p>〈 重大事態例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が自殺を企図した場合 ○身体に重大な障害を負った場合 ○金品等に重大な被害を被った場合 ○精神性の疾患を発症した場合 ○いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている場合（年間30日を目安。一定期間連続して欠席している場合）
いじめ問題調査委員会の設置	<p>□久慈市教育委員会への報告</p> <p>◇ 構成員</p> <p>【 学校 】 校長 副校長 生徒指導主事 学年主任 養護教諭 等</p> <p>【関係者等】 指導主事 心理関係者 福祉関係者 特別支援教育関係者</p> <p>【保護者等】 PTA役員 学校評議員 等</p> <p>※ 構成員については、当該いじめ事案の関係者と直接の人間関係又は特別の利害関係を有しない者（第三者）の参加を図ることにより、当該調査の公平性・中立性を確保するよう努める。</p> <p>◇調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞き取り ○アンケート等 <p>児童及びその保護者に対して配慮をし説明を行う。</p> <p>◇いじめを受けた児童及びその保護者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調査によって明らかになった事実関係を説明する。 ○個人情報に十分な配慮をして説明をする。 ○保護者の要望を聞き取り、再調査及び分析等を必要に応じて行ったうえで情報提供をする。 <p>□久慈市教育委員会への調査結果の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめを受けた児童や保護者が希望する場合には、いじめを受けた児童（生徒）や保護者の所見を添えて報告する。 <p>調査結果を踏まえた必要な措置</p>

3 重大事態への対処（久慈市教育委員会が調査の主体となる場合）

久慈市教育委員会の指示のもと、資料の提出など、調査に協力する。

VI いじめの防止等のための年間計画

月	会議・諸行事等	防 防止のための取組	早 早期発見のための取組
4	○年度始職員会議 □年度初めにいじめ防止にかかわる基本方針と取り組みについて共通理解を図る。	○学級会 ○学年懇談会、PTA総会 ○家庭訪問 防 保護者に学校におけるいじめ防止にかかわる取り組みを説明し共通理解を図る。	
5	○運動会 □運動会への取り組みを通じて、友人との協力や異学年とのかかわり充実させる。(延期)	○不適応児童等の情報交換 早 新年度開始後1か月経過時の気になる児童等について共通理解を図る。	
6	<u>○学校運営協議会</u> <u>□学校運営協議会委員からいじめ防止に関わる意見を得るとともに、保護者からの要望等を聞く。</u> ○廊下歩行、言葉遣いへの取組(児童会) ○いじめ防止対策委員会(基本方針) □廊下歩行、言葉遣いへの取り組みを通じて落ち着いた学校生活を送れるよう指導する。	○児童観察 早 日常的な児童観察により、対人関係の問題点等を探る。 <u>○学校生活・保護者・情報機器アンケート</u> 早 全校児童を対象にいじめの有無等に関するアンケートを実施し、いじめの早期発見に役立てる。	
7	○宿泊研修 ○期末面談 防 会議、面談等において学校、地域における児童の様子についての情報を交換、共有し、学校、家庭、地域の共通理解のもと、いじめ防止を含む取り組みを行う。	○校内研修会 早 情報交流を深めることで、児童の様子を確認し合い、いじめの早期発見に役立てる。	
8	○秋祭り ○修学旅行 □秋祭り等の諸行事への参加を通じ、集団での行動や協力し合う経験の深化を図る。	○学区内巡回 防 学区内の児童が立ち寄る店等を訪問し、児童の校外での様子を把握する。	
9			
10	○学習発表会 □学習発表会への取組を通じ、集団としての力を育成するとともに、達成感を味わわせ自尊感情を高める。	○児童観察 早 日常的な児童観察により、対人関係の問題点等を探る。	
11	○授業参観 □諸行事への参加等を通じ、学校・家庭・地域の交流を深める。	○学校生活及び保護者アンケート 早 全校児童及び保護者を対象にいじめの有無等に関するアンケートを実施し、いじめの早期発見に役立てる。	
12	○期末面談 □保護者から家庭での児童の様子を聞くとともに、きめ細かく情報共有をしていくことを確認する。	○校内研修会 早 情報交流を深めることで、児童の様子を確認し合い、いじめの早期発見に役立てる。	
1	○いじめ防止対策委員会 <u>○学校運営協議会</u> □いじめ防止対策委員会を開催し、今年度の取組の反省を行うとともに、次年度の取組を検討する。	○研修会等の開催 防 いじめの早期発見、対応に必要な資質向上を図るための研修会を開催する。 防 インターネットによるいじめなど保護者向け研修会を開催する。	
2			
3	○修了式 卒業式 □進級、進学を控え、一人一人の成長を認め自尊感情を高めるとともに、次年度に向けての意欲付けを行う。	○次年度への指導にかかわる引き継ぎ 防 次年度に向けて配慮が必要な児童等の引き継ぎ資料を作成するなど、指導の継続を図る。	

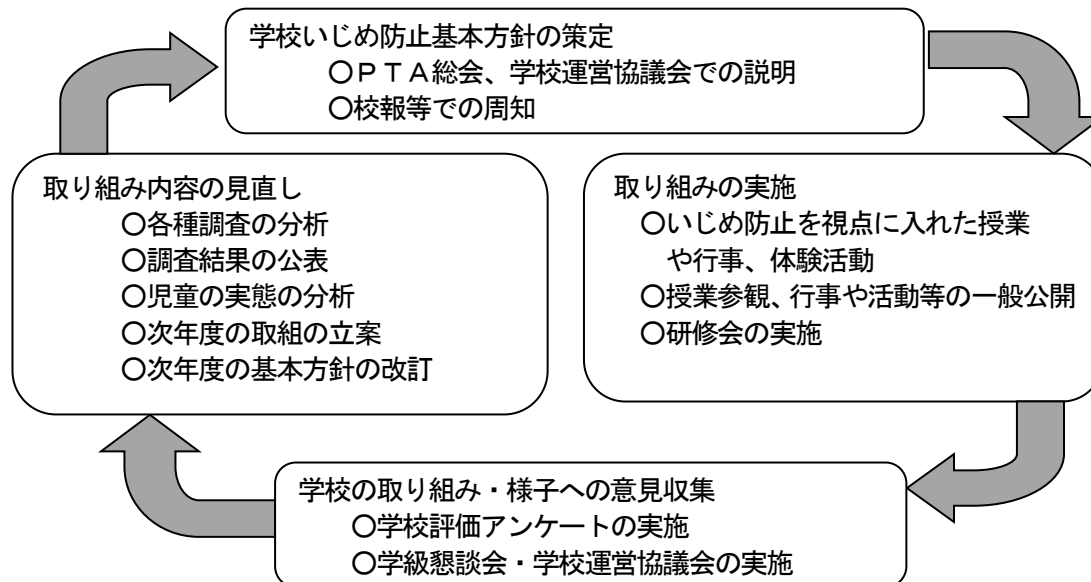
Ⅶ 学校評価

1 学校評価

いじめの把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、次の2点を学校評価の項目に加え、適正に自校の取組を評価する。

- いじめの未然防止にかかわる取組に関する事
- いじめの早期発見にかかわる取組に関する事

2 学校の取組の検証体制



Ⅷ その他

1 校務の効率化

教職員が児童生徒と向き合い、いじめの防止等に適切に取り組んでいくことができるようにするため、校務分掌を適正化し、組織体制を整えるなど、校務の効率化を図る。

2 地域や家庭との連携について

いじめ防止等にかかわる方針及び取組について、保護者及び地域に公開し、理解と協力を得る。また、より多くの大人が児童生徒の悩みや相談を受け止めることができるようにするため、学校と家庭、地域が組織的に連携・協働する体制を構築する。

いじめ防止対策委員会 委員

No.	区分	所属・役職等	備考
1	学校教職員	校長	
2		副校長	
3		教務主任	
4		生徒指導主事（兼学年主任代表）	
5	保護者	PTA 会長	保護者委員
6		PTA副会長（1名）	保護者委員
7		校外指導部会長	保護者委員